

4-1-8 特殊診療部

4-1-8-1 移植免疫診療科

1. 概要、特色

1.1 概要

欧米での臓器提供は脳死者からがほとんどであるが、本邦では 1997 年に脳死法案発令後も脳死者からの臓器提供は限られており、9 年間で 28 例の脳死肝移植が行われているにすぎない。慢性的な脳死臓器不足から、自発的臓器提供意思をもつ血縁者から肝臓の一部を提供する生体肝移植が行われている。生体部分肝移植の症例数は 2003 年末まで 2667 例と増加の一途を辿っている。本邦での生体肝移植年間症例数は約 400 例で、18 歳以下の小児症例は 180 例である。小児移植の専門施設は限られており、当院で高度先進医療として移植医療を展開する意義は非常に大きいと思われる。今後、当院研究所移植外科部門の絵野沢伸室長と協力し、各種脳死移植、小腸・肺・膵島・肝細胞移植へと発展させていく予定である。

2. 診療活動、研究活動

2.1 診療活動

平成 17 年 11 月から平成 18 年 3 月末まで 6 例の生体肝移植を施行した。ドナーに合併症なく、レシピエントは全例生存し良好な術後経過をたどっている。当院では小児集中治療が充実しているため、血液濾過透析等の管理を要する劇症肝炎、代謝性肝疾患の移植に対して、内科的治療および移植治療を含めた総合的治療を迅速に行える。内分泌・代謝科、消化器科の協力のもと、将来的に年間約 60 例以上の肝移植症例が見込まれる。

本邦における 2003 年肝移植ドナー死亡事例から、ドナーの身体的経過ばかりでなく精神的な周術期管理の重要性が指摘されている。当院では、ドナー・レシピエントともに術前から、こころの診療科、院外倫理委員参加による診療・評価を行っている。

移植医療責任者である笠原群生医長は、京都大学・Kings College（英国）で肝移植 1200 例、小腸移植 6 例、腎臓移植 40 例、肝細胞移植、膵島移植等の豊富な経験を持ち、手術手技・周術期管理に関して医療従事者に十分な教育ができる。

2.2 研究活動

代謝性肝疾患に対する肝細胞移植を、生体肝移植における Monosegment 移植時の余剰肝臓を用いて臨床応用する予定である。研究所移植外科部門の絵野沢伸室長と共同研究を行っている。

3. 研修、評価

特になし

4. 社会的活動

4.1 教育講演

1. 2006 年 3 月 15 日 群馬県移植研究会 肝移植講演
2. 2006 年 5 月 13 日 慈恵医大移植医療教育セミナー 小児肝移植講演